

音楽Ⅰ 改訂版 Tutti+ 検討の観点と特色 (50 大修館 音Ⅰ 050-901)

項 目	観 点	特 色 等
<b>1 内容の選択 ・程度</b>	<p>*学習指導要領、教科の目標を達成するために必要な教材</p> <p>*基礎的・基本的事項の理解や習得のための配慮</p>	<p>○教材の選択や構成は、学習指導要領に示される「芸術科 音楽Ⅰ」の指導事項を偏りなく取り扱う内容となっている。</p> <p>○教材は、《歌唱》《器楽》《創作》《鑑賞》の分野で構成され、「芸術科 音楽Ⅰ」の指導事項を学習するために十分な教材数と内容になっている。</p> <p>○《資料》の楽典・音楽史と史実・ギター&amp;キーボード・コード表などは、生徒が主体的に用語・記号や楽器の奏法を調べたり、楽曲の時代的な位置づけや背景を理解したりする上で有用である。</p> <p>○《歌唱》《器楽》の教材には、脚注で楽曲に関する基本的な情報が示され、表現活動を深める上で有用である。</p>
<b>2 組織・配列 ・分量</b>	<p>学習指導を有効に進めるための組織・配列・分量</p>	<p>○《歌唱》の教材は、独唱・斉唱・合唱・アンサンブルなどさまざまな表現形態の選択が可能となっている。言葉の特性を生かして表現するために、イタリア語、ドイツ語、英語、フランス語、中国語、朝鮮半島の言語による教材を選択することが可能である。生活との関わりに配慮し、生徒にとって身近な歌や世代を越えて歌い継がれてきた歌を扱うなどバランスのとれた選曲となっている。</p> <p>○《器楽》の教材は、和楽器・リコーダー・ギターのさまざまな表現形態による教材を配列し、難易度に配慮したバランスのとれた選曲となっている。導入時の学習を意図した基礎的・基本的事項を学ぶ内容が示されていて有用である。</p> <p>○《創作》の教材は、創作活動に関わる知識や技能を身に付けながら主体的に学習に取り組めるよう配慮されている。創作活動の参考となる楽曲を提示し、創意工夫する活動を促すよう工夫されている。</p> <p>○《鑑賞》の教材は、日本と西洋の音楽史を踏まえた教材で構成され、バランスのとれた選曲となっている。鑑賞活動のテーマを提示して主体的に学べるように工夫され、我が国および諸外国のさまざまな音楽を幅広く取り扱っている。総合芸術については、オペラ・ミュージカル・歌舞伎・人形浄瑠璃を関連付けて取り扱うことが可能となっている。</p>
<b>3 表記・表現 および使用上の 便宜</b>	<p>*学習意欲を高めるための配慮、用語・記号の取り上げ方および記述の方法</p> <p>*印刷の鮮明度、活字の大きさ、行間、製本など</p>	<p>○学習中に確認が必要な用語・記号は該当教材の紙面内で説明し、基礎的・基本的なものは《資料》の楽典に掲載されている。作曲家年表には作曲家の肖像を示し、表や図版を用いて見やすくまとめられている。ギター&amp;キーボード・コード表は、楽譜に加え写真や鍵盤などを提示し、資料として有用である。</p> <p>○A4判の判型で音符や歌詞がたいへん見やすい楽譜となっている。紙質・印刷も良好で、各所にあるカラーの図版や写真は学習しやすいように配慮されている。表紙はコーティングが施され、製本も堅牢である。</p> <p>○カラーユニバーサルデザインに配慮した色づかい、紙面構成が工夫されている。</p>
<b>4 総合所見</b>	<p>○表現と鑑賞の資質や能力を伸ばすためにふさわしい教材が精選・配置されており、多様な音楽文化への理解を深め、音楽に関する感性や愛好する心情を高めることが意図されている。</p> <p>○全般にわたり学習指導要領の目標や内容に沿った教材の選択と配列を基本とし、普遍的な価値をもつ教材と新鮮味のある教材がバランスよく配置されている。</p>	